

研究参加のお願い

【研究の目的】

早産の赤ちゃんは少なからず未熟性を持って産まれてきます。新生児医療の進歩に伴い、早産の赤ちゃんも大きなトラブルなく成長される方が増えてきています。一方で、未だに脳機能や呼吸機能などにハンディキャップを抱える方がいるのも事実です。健やかな赤ちゃんの成長を願い、我々は日々、早産の予防や早期発見、お腹にいる赤ちゃんの健康状態の把握に努めております。



現在、早産されたお母さんではある種の腸内細菌数が減少していることが指摘されています。これら菌は体の中で水素(H₂)産生を担う菌です。体の中で水素(H₂)がこういった役割を担っているかは完全にはわかっていませんが、近年になり水素(H₂)が炎症や酸化ストレスを抑える作用をもつことがわかり、医療分野への応用が試みられています。動物実験においてはすでに赤ちゃんの水素(H₂)濃度の上昇が、産まれた後の障害の軽減に役立つ可能性が指摘されています。

こういったことから、我々は「水素(H₂)濃度の測定が早産発症の予防や治療、赤ちゃんの状態把握に役に立つのでは？」と考えています。

【協力していただきたいこと】

呼気採取: 体内でのH₂産生量を推測する方法として呼気中の水素濃度測定法があります。腸内水素ガス産生量の約14%が呼気中に排出されることがわかっているからです。深呼吸の際の呼気を採取するだけの検査のため患者さん自身には侵襲性を伴いません。



羊水採取: 羊水の主成分は赤ちゃんの尿です。そのため、羊水に含まれる水素濃度を測定することが胎児状態を把握するのに有用な可能性があります。羊水は、妊娠中の赤ちゃんにとっては重要なものですが、分娩時にはその役目を終えて自然に流出・破棄されます。また、羊水検査の際にも検査精度を保つため最初の数ccは破棄する必要があります。これら破棄される羊水を検査に使用させていただきたく思います。



【実施計画などをさらに知りたいときは】

もしあなたが希望されるのであれば、差支えない範囲で研究計画の内容を見ることができます。

【問い合わせ受付・苦情の受付】

○問い合わせ先

説明責任者・担当者氏名: 小谷友美 / 今井健史
(Tel 052-744-2261 FAX 052-744-2268)

○苦情の受付先

名古屋大学医学部総務課 (Tel 052-744-2804)



* 将来、あなたの周りの大事な人が妊娠した時に、もしくは、あなた自身が次回妊娠した時、より安全な妊娠生活を過ごしていただくため、多くの妊婦さんがこの研究に御参加いただければ幸いです。